

2017年3月29日

サンフランシスコ市長  
エドウィン・M・リー 様

先日は、「慰安婦像及び碑」の建立に関する私の懸念を伝える公開書簡に対して、貴殿の迅速なご返信を頂きお礼申し上げます。

またご返信の中で、慰安婦像プロジェクトに関するこの間の経過や貴殿の立場についてご説明を頂き感謝申し上げます。

ただ、私の中では依然として懸念が払拭されない部分があるので、再度、書簡を送らせていただく。

私が懸念する碑文の文言についてであるが、貴殿のご返信にもあるように、サンフランシスコ芸術委員会での間、種々議論を重ね、いくつかの修正ののち合意に至った経過は理解したが、サンフランシスコ芸術委員の方々が、どういった歴史的証拠により碑文文言が事実に基づいていると判断したのかについては、依然として理解できない部分がある。

貴殿が言われるように、歴史というものはしばしば個人によって解釈が大いに異なるもの、だからこそ、もし不確かで一方的な主張がそのまま碑文に記され、公共の場所に設置されることになれば、世界の多くの人々がそれを事実として信じてしまう可能性があり、大いに懸念を感じている。

誤解のないように申し上げますが、私は、女性の尊厳と人権を守るための活動については大いに取り組むべきと考える。「慰安婦像及び碑」の建設が、世界中のあらゆる国でいまだやむことのない人身取引の問題について啓発するのが目的であるのならば、碑文の文言には、個人により解釈が異なる不確かな文言が含まれるのではなく、各国が共有できるものであるべきと考える。

貴殿によると、今回の「慰安婦像及び碑」について、建設の推進母体は、犠牲者への敬意という善意に基づいた意図を有しており、大阪とサンフランシスコの関係を混乱させたいわけではないとのことである。

しかしながらこの間、日本国内においては、「慰安婦像及び碑」の建設に懸念を示す意見が多数、本市に寄せられているという状況に鑑みると、この問題のとらえ方には貴市と本市の間で大きな隔りがあると感じている。

貴殿も述べられているように、本年は姉妹都市60周年という記念すべき年である。私自身もこの記念すべき年に貴市との関係を混乱させる意図は毛頭なく、むしろこの困難を乗り越えて、本年予定している様々な交流事業を通じて、両市が世界に誇れるさらなる強固な信頼関係に発展させたいと考えている。

貴殿とは昨年8月にお会いし、良好な関係があるからこそ、このような私の懸念も率直に伝えることができると考えている。両市の輝かしい未来のためにも、サンフランシスコ市の意思として、公共の場所に現計画のまま慰安婦像及び碑を設置することについて、姉妹都市の市長として再度の検討を強く求めたい。

なお、この書簡については、前回の書簡同様、サンフランシスコ市民の皆様はもとより、大阪市民の皆様を含めて広く知っていただきたいとの趣旨で、公開書簡とさせていただきますのでご理解ください。

大阪市長  
吉村 洋文